

特集

歩もう…ともに、たくましく。 市長、3期目スタート!

岡谷市PTA連合会副会長の柞山浩章さんと諏訪エリア観光宣伝大使の佐々木愛さんが、3期目を迎えた今井市長を訪問。機械器具を製造する(株)丸和柞山製作所会社役員の柞山さんは、小6と中2の野球少年の父で、休日は熱血応援団長に変身。みそソムリエの資格を持つ佐々木さんは、(有)喜多屋醸造店のマーケティング担当で、商品開発を通じ地域とつながる活動を展開。そんなお2人と市長との歓談のひとときを、特集でお届けします。

柞山さん きょうは、ワクワク楽しき感じがいました。みんなが元気に輝くたくましいまち、これに向かって、3期目がスタートしたんですね。

市長 多くの市民のみなさんからご支持をいただくなか、3期目の市政を担う役割を与えていただきました。「人、輝きたくましいまち岡谷」を公約に掲げ、産業の活性化によって、足腰の強いまちをつくる、という思いを貫いてきましたから、総合計画の将来都市像「みんなが元気に輝くたくましいまち岡谷」の実現こそ、わたしの夢ということができます。

佐々木さん 「たくましい」というのは、具体的にどんなイメージですか。

市長 やはり、がんばっている企業を支援し、産業に活力を与え、身についたたくましさをまち全体へ広げる、ということではないかと思っています。

また、安全・安心への取組も、最重要です。平成18年7月の災害では、尊い命や財産が失われ、何よりもまず、安全・安心なまちをつくっていかなければならないと強く思いました。安全・安心は、たくましさの土台だと思いますし、人が輝き、みんなが元気にというのにも、つながってきます。

佐々木さん お忙しいなかですが、もし今、1週間休みがとれたとしたら、どんなふうに過ごされますか。

市長 まずは、ふだん会えない友人に会って、情報交換したいですね。畑もやりたいかな。畑仕事って、成果がちゃんとわかるじゃないですか。体は疲れて

も、ストレス解消になりますね。加えて、ふだん放つたらかしな山の手入れ、さらには、里山歩き程度の軽登山ですね。

柞山さん 情報交換できる仲間がいるっていいですね。

市長 まだみんな現役世代で、それぞれがんばっていますので、いろいろ参考になると思います。

佐々木さん わたしも、農家のみなさんといっしょに畑をしているんです。市長さんは、どんな野菜をつくっているんですか。

市長 定番のキュウリ、トマト、ナス、ピーマンとか。今からは大根。前はもうちよつとやれたんですけれどね。市長になつてから、土日の自由な時間が少なくなつちやつたものですから。

佐々木さん というと、土日は、どんなお仕事をされるのですか。

市長 イベントや講演会、さまざまな会合の総会だとかもありますね。9月には、敬老会も。

柞山さん 敬老会というと各区へ?

市長 1日に5会場…というように時間割になつてしまうのですが、ご長寿の



みなさんが元気でいらして、こっちが励まされます。

佐々木さん わかる気がします。

柞山さん 市長としてではない、個人の夢も聞かせてください。

市長 岡谷をいまちにしたいとか、市民のみなさんが豊かに暮らせるというとか、そういう思いが強くて、自分のこれやりたいというのよりも優先になっちゃいますね。公人としての生活が身についていて...

柞山さん コンビニみたいに、24時間いつでもずっと市のことばかり考えているのですね。

市長 そんなではないけれど、役目を与えてもらっていますのでね、市民のみなさんの期待に応えることが、いちばんの喜びです。病院も消防署も、いよいよかたちになって、喜んでもらえるとうれしいですよ。みなさんの仕事でも、同じだと思います。

柞山さん 頼りにされていると思うと、がんばれるし、それが喜びなんです。佐々木さん 喜びを実感するまでには、ご苦労も多いと思うのですが、プレッシャーに打ち勝つ方法とか教えてください。

市長 いやいや、わたしも知りたいですよ。その場その場で相手も違うし、場面も変わっていくじゃないですか。やはりプレッシャーがかかります。押し潰されそうになって、嫌だっと思うときもあります。踏みとどまって、その緊張を受け入れることで、成長させてもらっている、超えていけるのかなと。



佐々木さん 超えたところに何が見えますか。

市長 まだ超えていないから、わからないけれど、緊張感があった方がいいんじゃないかな、慣れてしまうよりは。柞山さん 仕事でも、運転でも、慣れてくると、事故が起きたりします。

市長 ということで、プレッシャーはいいだと思います。

【産業振興】

柞山さん 3期目を迎え、今まで力を入れてきた産業振興は、どんな進展をイメージされていますか。

市長 昨年、工業活性化計画を策定しまして「次世代を創造するものづくりのまち」というフレーズを進めていくんですけれど、基本は、がんばっている企業のみなさんを支援していきたいという思い。創業意欲のある人への支援などを充実させたいと考えます。

成長が見込める分野での新技術、新製品の開発には、思い切つてチャレンジしてもらえよう補助金制度がありますし、一方で、小さな工場でも、

がんばりたいという人や会社には、特別枠の支援を用意しています。

柞山さん うちみたいな零細でも、小回りが利くという点で、革新的なものに挑戦しやすいかもしれないですね。

市長 積み重ねがないと、革新という発想になりませんから、持続もだいじですね。製造業の集積が強い岡谷とはいえ、最近、後継者がいない事業所が気になり、技術や経験の蓄積、財産が失われてしまわないよう、何とか承継する道を模索したいと思っています。ネットワークを構築して、適切な情報の発信などに努めれば、やる気がある人たちの橋渡しが可能ではないでしょうか。



企業誘致 もね。さまざまに実績を上げている人たちに、新しい仕事、雇用とか技術を、岡谷に持ち込んでもらいたいというのがありますし、商業関係では、中心市街地の空き店舗の解消とかですね。店舗の改修費などの支援も行っています。

柞山さん 事業者の立場でいうと、市ではいろいろ施策を打ち出してくださっていて、そういうものを自分たちがもっと積極的に利用していかないとけないと思います。

【観光、その位置づけと取組】

佐々木さん 産業全般を見渡すなかで、観光についてはどんなふうにお考えですか。

市長 以前の感覚では、岡谷って、観光ではピンと来なかったと思うんですけど、3年前に「全国産業観光フォーラム」というのを開催しました。全国という冠と、観光という冠のつくイベントが岡谷でできたことは、大きな転機だったのかもしれない。観光というのが、おいしいものを食べる、温泉に入る、すばらしい景色を見る、というだけでなく、知的好奇心を満足させるというものにも変化しているんですね。岡谷の製造現場にはね、先端技術あり、伝統あり、そういったものが観光の資源になるということで、県の協力も得て「全国産業観光フォーラム」が実現しました。





業観光に、光が当たっていると感じます。

ただ、観光を観光業とするためには、来

ていただいていた、では終われません。商店、飲食店などと協力し、岡谷にお金を落としてもらう、はじめて産業としての位置づけができると思います。うなぎは「岡谷に食べにいく」と言っていただけになってきました。うなぎは、ほかに、買えるものができるしくみだとか、魅力をつくっていかなくてはと思っています。

佐々木さん どうしてこういうとか、お考えはありますか。

市長 蚕糸博物館が、駅や中心市街地からちよつと離れていることを逆手に、イルフ童画館や美術考古館、それから旧林家住宅とか、そういった資源を連携させて、まちを回遊してもらおう、そのなかで「あーいいお店あるね」とか発見を楽しんでもらい、認知してもらえようになればと思っています。2館、3館、5館の共通入館券なども活用し、まちあるきのスタイルを提案していきたいですね。



佐々木さん ツアーに組み込むとかですか。

市長 蚕糸博物館へのツアーは、増えているんですが、ワンポイントなので、岡谷のなかでもうちよつと滞在してもらええるツアーづくりを、業者にも提案したいと思っています。美しく恵まれた自然、湖畔だつていいじゃないですかね。

佐々木さん きれいです。

市長 キャッチフレーズが「湖に映える、美しいものづくりのまち」ですからね。天竜川の源でもありますし。

佐々木さん 精密加工でも、知らない人が見たら、おもしろかったり、夢があったり、感動するものがあつたりするのだと思います。

市長 最先端の技術は知的好奇心を満足させるのに十分の価値がある。ふるさと納税の返礼品ね、喜多屋さんのみそもそうだけど、「精密ゴマ」も結構善戦しているんです。やっぱりおもしろいんだと思いますよ。

柞山さん 精密、機械、部品とかというの、マニアックで一般的にはあまり関心を持たれない気がしていたのですが、そんなことないんですね。

市長 足もとを見ると、資源はたくさんあるなつて思



います。

柞山さん コラ

ボレーションができれば、さらにいいですかね。

市長 そうそう。観光という

ことであれば、岡谷のなかだけでなくて、諏訪圏が連携し、その二翼を岡谷が担っていくというふうですね。

柞山さん 新消防署だつて、広域ですね。

市長 そうです。岡谷の消防庁舎のなかに、諏訪広域消防本部が入つていて、コラボレーションでやっていますからね。

柞山さん 湖周のごみ処理施設もそうですよね。

市長 岡谷と諏訪と下諏訪の2市1町による競い合いとトータルな連携と、両方だいじだと思っています。

佐々木さん いっしょに活動させてもらつて「だもんで」の仲間は、地元にいる人のほうが岡谷のよさを知らないんじゃないか、ともいつています。わたしも知らないことがたくさんあつて、勉強不足だと感じるんですけれども、地元の人への思い込みフィルターをはずして、いいねーを届けていくことができたと思います。

市長 「だもんで」もそうですが、いろんな活動をしている人たちに協力をいただくことも必要と考えます。

首都圏などで調査をしたら、岡谷のことを、男性は割と知っているんですよ。製造業に関わりを持つ人が多いからでしょうか。ところが、若い女性の認知度は、極端に低くて、それで、これはどうにかしなくてはと、女性に向けた企画も始まっています。文化服装学院の学生さんが、シルクファクトおかの宮坂製糸所製のシルクで服をつくつ



て装う…ファッション誌「装苑」で、「キヌコレ」と銘打つた特集も予定されています。

佐々木さん ファッションのアンテナの高い学生さんに取り上げてもらうと、新しいかたちでシルクの発信ができますね。

市長 新しいシルク文化の発信ができればと思います。若い世代に岡谷を知ってもらうには、こうした機会をさらに増やしていきたいですね。

柞山さん たしかに、岡谷のよさつて、考えたことなかったですね。ずっと住んでいるとそうなるっちゃうのかも…。

佐々木さん 製糸業の隆盛、工場の規模拡大などにより産業化した岡谷のみそは、戦後から昭和30年代に、日本の生産量を誇っていました。いまでも市内ではみそづくりが盛んに行われていますが、認知度はもうひとつ…そこで、ゼロから「岡谷みそ」という活動を始めました。それは「信州みそ」「諏訪みそ」があつて、なぜ「岡谷みそ」がないのかというところからの取組で、まずは、みその原料である大豆と米を無農薬でつくり始めたいとしています。

市長 ほう!

佐々木さん みそは、家庭でも飲食店でも、誰もが使うものなので、人と人がつながって、農産物やその加工品がブランド化できたら、農家さんの自信も深まって、岡谷のものづくりに、ひとつの方向性を示せる気がします。

市長 なるほど、なるほど。

佐々木さん きょうは、試作段階ですが、新商品を持つてきました。これは「いぶし生味噌」とい

います。市内酒蔵の日本酒を使わせてもらって、桜のチップでみそをいぶしてます。お酒のつまみにおすす



めです。こちらのは「うめ生味噌」で、箕輪の梅を使っています。ほかに、湊の農家さんの無農薬野菜を使った「ハバネロみそ」などがあります。

市長 話を聞いて、注目の6次産業に近いカタチかな。食は、訴求力が大きいので、期待できますね。

佐々木さん 地元のお酒や農産物やそれを愛する人とながつて、地域を盛り上げられたらすてきだと思えます。農業そのものも産業観光になったり、理想かな。諏訪湖や八ヶ岳や富士山を眺めながら、土にふれたり、収穫したり。

市長 楽しみだね。いろんなチャンスがあると思います。よし、発売になったら、これでお酒を飲みましょう。

【子育て・教育】

柞山さん 信州型コミュニティスクールというのを耳にし、興味をもちました。最近では、地区での防災訓練に中学生が参加したり、地域で子どもたちを育てようという環境になってきていますね。地域での体験や交流が、子どもたちの社会的自立を促し、また郷土に愛着を持つきっかけになるように思います。

市長 コミュニティスクールというのは、国の大きい方針なものですから、県で少しかみ砕いて、地域一体の開かれた学校づくりをしましょう、学校の運営や評価にも参画してもらおう組織をつくりましょう、と動きだしたのが信州型です。そうしたなか、岡谷として、どういったかたちで、コミュニティスクールをやっているかと、今、検討しているところです。地域の人たちの力を借りての通学路の見守り、読み聞かせをはじめとする放課後の居場所づくりなどをともに、それを軸とした学校づくりをね、実現していきたいというふうに思っています。岡谷の子どもは岡谷全体、市民みんなで育てようと、そんな思いで。

柞山さん 自分自身そうなんだけれども、最近は親が子どもの見本になれていないと感じます。

市長 親御さんも忙しくて、子どもたちと接する時間が少ないので、そこで、地域や



からもよろしく願います。

柞山さん 学童クラブを、6年生まで延ばしてもらったし、保育園では長時間保育でしたね、すばらしい取組かと。

市長 岡谷の場合、若い世代に共働きが多いので、両親に安心して働いてもらえるように、今年の4月から全小学校で、3年生までだった学童クラブを、一気に6年生までに拡大しました。

佐々木さん わたしもかつて学童にお世話になりました。6年生までだと、いっしょに遊んだり過ごしたり、楽しそうですね。

市長 最近は、兄弟も少ないし、異学年交流は貴重ですね。

柞山さん 友だちと集まっても、それぞれにゲームやっていますよ、無言ですごく違和感があります。

市長 その点、学童クラブや放課後の居場所づくりは、有意義だと思います。

佐々木さん 岡谷は、大人にも仲間づくりや地域につながる場が用意されていると感じます。お母さん向け講座も多く、子どもを預かってもらえたり...

市長 そう、託児ね。子育てで家庭にこもっちゃうと、孤独感や不安が大きくなるので、積極的に外へ出てもらって、社会とのつながりをもってもらって、いったことも大切なこと。

柞山さん 女性にやさしい、子育てのまちですね。

市長 もっと、そうしていかないとけない。参加してもらえると、人とも知り合えるでしょ、いいことですよね。

【新病院への期待】

柞山さん 岡谷市民病院の建物が完成し、ハードとソフトの両方で、みんな期待しています。産科医不在、医師不足などの課題もあるなか、どんな病院にしてお考えですか。

市長 市民のみなさんの健康を守り、期待や信頼に応える、より質の高い医療を総合病院として提供していきたいです。快適な入院生活が送れるかどうか、外来も同様で、わかりやすく使いやすい病院であることが大切です。

一方でソフト、診療態勢の充実ですけれども、医師不足という状況のなかで、ご指摘のように、産婦人科では、分娩のできない状況が続いています。これに対しては、精いっぱい努力で、一刻も早く医師を確保したいと考えています。派遣元である大学病院、県のドクターバンク、民間のあっせん機関にも働きかけ、岡谷出身者や岡谷にゆかりのあるみなさんへの地道な声がけなど、あらゆる手段を尽くして、ドクター、看護師、医療スタッフの充実をしてい



きます。

柞山さん

病院債

に、多くの応募がありました。



やはり期待が大きいかでしようね。

市長 みなさんからお金をお借りをし、財源の一部に充当させていただく市民病院債ですが、2億円のところに2億5千万くらいでしたね、応募をいただき、大変ありがたかったです。

今後、ご覧いただく機会もあると思いますが、ハイブリッド手術室とかですね、今までなかった高機能が備わっていますし、明るいですし、それからバリアフリーとかもできています。今までの病院の多床室は、1室に6ベッドでしたが、新病院は4つなんです。お見舞いに来た人も、付き添いの人もゆつたり、窮屈さのない空間ができました。

ハード面では、環境にやさしいというのもひとつのテーマでして、地中熱を利用して冷暖房をしますので、消費電力も少なくなり、二酸化炭素削減にも貢献します。地中熱の利用としては、全国でも屈指の規模となります。太陽光も利用しますし。もうひとつが耐震で、

免震構造により、安全・安心の拠点として機能するわけです。

佐々木さん エコですね。

市長 再生可能エネルギーの活用ですとか、耐震ですとか、これからの建物には、求められてきますね。

柞山さん 病院があると思うだけで、安心です。

市長 はい。総合病院は、まちの暮らしやすさをはかるバロメーターという見方もあるくらいです。病院を中心として、安全・安心を実現させていかなくとは思っています。

佐々木さん 病院と開業医の先生との連携も、これからさらに強化されると聞きました。

市長 病診連携に病病連携ですね。こういったことをきちんとやるのが医療の充実だと考えます。地域の開業医の先生たちには、地域包括ケアシステムへ向けても協力いただいているところで、医療、介護、福祉、それぞれの役割を分担しながら、連携を深めていきます。**柞山さん** 医業でも、ネットワークが大切なんですね。お話を伺うと、病気でなくても、ちよつと病院に行ってみたくなります。健診とか。

【まちづくりのエンジン】

佐々木さん わたしは、若い世代が岡谷に戻ってきて、定住につながるような政策に関心があります。

市長 若い人たちを呼び戻すことを考えるとき、岡谷の場合は、ほかの地方都市に比べると、産業があり、雇用環

境が整っているというアドバンテージがあると思いますが、それでも簡単ではありません。

中学生などからは、ショッピングモールがあったらいいな、という声も聞きます。土地の確保がむずかしいことや、そういったものができると、逆に昔からある商店が減ってしまい、日々の買いものができなくて困る人が増えたりすると話したりしますが、便利に樂しめる場所がほしいというのわかりますので、今、建て直しをしている(仮称)レイクウオーク岡谷にも期待をしています。住んでいるまちは、活力があつて、にぎやかなほうがいいし、人口だつて減らないほうがいいに決まっています。若い人たちが戻ってきてくれるように、そしてまちづくりに参加してくれるように…。価値観がいろいろだからむずかしいけれど、少なくとも働く場があるということ、安心して子どもを産み育て、住み続けられるという、これはだいいじかなと。地元の高校生には、都会や大企業志向もありますから、一度は外に出るとして、いずれUターンしてもらえように考えていけばいいかもしれません。



これは、諏訪の6市町村で出している「信州でさがして諏訪で暮らす」という

移住促進のPR誌なんですけど、岡谷は、製造業の充実を前面に、働く場所があります、豊かな自然のなかで暮らしませんか、とPRしています。

柞山さん 施策つてむずかしいですね。高齢化といつても、赤ちゃんも、学生も、若い世代も、働き盛りもいるので、どこに向けてだとか、絞つてとか、みんなにとか、いろいろ考えていらつしやるんですね。

市長 県外女性の知名度が低ければ、そこに向けたアピールとか、高齢者には健康づくりとかね。岡谷みそも、ぜひ、そこに貢献してください。

佐々木さん はい。みそは、美容にも健康にもいいので。

市長 若者のUターンには、本腰を入れていく覚悟で、敬老会でも「お孫さんに岡谷に戻つてくるように声をかけてください」とお願いしてきました。

佐々木さん 祖父母がいらつしやつて、戻つてくるということもありますね。

市長 これからは、二地域生活みたいなものも増えてきそうです。1週間のうち半分を高齢になったご両親と過ごしながら、定年退職後も、岡谷で技術や能力を生かしてもらえたいですね。**柞山さん** そうすれば、人口も増えてきますね。

市長 空き家対策にもなるかなと。もともと岡谷は、製糸が栄えた時代から、いっぱいの人に来てもらつて、支えてもらつて発展してきたわけです。いろんな技術者だとか、それから労働力。だから入つてきやすい環境は、今もある

と思っています。

佐々木さん 安心しておいでよといえますね。

市長 ものづくりの現場は、人が支えているのですからね。

佐々木さん 大きい事業が次々完成しているなか、振り返っていかがですか。

市長 6つの重要施策とっているんですけれども、新病院、新消防庁舎、ごみ処理施設、それから美術考古館、蚕糸博物館、看護専門学校、ですね。おかげさまで、ほぼ成し遂げつつありますので、これからは、各施設がその役割を十分に果たすための運営・活用をし、さらに充実発展させ、質の高い安全・安心なまち、健康で生きがいを持つて暮らしていくことのできるまちにしていきたいと思っています。蚕糸博物館、美術考古館は、文化を核にしたまちづくり、誇りを醸成する拠点としてね。

それともうひとつが「まち・ひと・しごと創生」ですけれども、岡谷らしい特色を生かした、岡谷版の総合戦略をつくっていききたいと考えているところです。繰り返しになりますが、製造業を軸とした産業振興による働く場の確保、雇用の充実、人や企業を呼び込み、まちの活力を生み出していく戦略です。岡谷ブランドを育てていくのもそうです。今までもやってきていることなので、みなさんにご協力をいただく

なかで、実現させたいと考えます。若い世代の人たちが安心して子どもを産み育て、働き、住み続けることができるまちづくりですね。

人と人との支え合いで地域力を上げていく、それによって、住んでいることに誇りと自信、愛着を持てるまちづくりをする、わたしは、これが岡谷の創生だと思っていますので、それに向けて、力を入れていきたいと思っています。

佐々木さん 岡谷市の今後の姿を、どう描かれますか。

市長 やはり「みんなが元気に輝くたくましいまち岡谷」ということになりそうです。すべての人が輝けるまちをめざして、少しずつでも休みなく挑戦していくことですね。

柿山さん そんな「まち」がいいです。みんなでがんばっていきましょう。

佐々木さん はい、がんばります。

市長 よろしくお願いします。きょうは、ありがとうございました。



3期目にあたって 市民のみなさんへ

この度の市長選挙におきまして、市民の皆様のご支援により、再び岡谷市長として市政を担う役割を与えていただきましたことに深く感謝するとともに、課せられた使命と責任の重さを改めて痛感しております。

平成19年に市長に就任させていただいた1期目では、喫緊に対応すべき課題に積極的に取り組み、実行・実現し、また、実現のために中・長期的な視野が必要であつたり、時間を要する事業につきましては、その種をまき、方向性・道筋を示し、着手するものは着手してまいりました。

2期目では、岡谷市における平成18年7月豪雨災害や東日本大震災等の大きな自然災害の経験、少子高齢社会の急速な進展を踏まえ、市民生活の安全・安心を支え、健康でいきいきと暮らしていくための基盤整備が急務であるとの判断のもと、新岡谷市民病院や新消防庁舎、湖周地区ごみ処理施設の建設や、新美術考古館、新蚕糸博物館、看護専門学校の施設整備などに着手し、市民の皆様のご理解・ご協力をいただき、ほぼ成し遂げつつあります。また、市政全般にわたり各種施策を積極的に展開してまいりました。

迎えました3期目は、整備してきた施設が、十分にその役割を果たすための運営・活用をし、魂を入れ、さらに充実・発展させ、質の高い安全・安心のまち、健康で生きがいを持つて暮らすことの出

来るまちの実現をしていかななくてはならないと考えております。

そして今、国と地方による地方創生が動き始めております。「まち・ひと・しごと創生」は、これまでも力を入れて推進してまいりました産業振興による「まちの活力の創造」と働く場の確保、若い世代の皆様が安心して子どもを産み育て住み続けることができる「子育て支援の充実」、岡谷市の特色を活かした「岡谷ブランドの創出」、人と人との支えあいによる「地域力の強化」などにより、住むことに「誇り」と「自信」そして「愛着」を持つことができるまちの実現であり、それが岡谷の創生であると確信しております。

次世代への礎を築き、人口減少をはじめとする困難な課題に果敢に挑戦し、まちの熟度を高めながら活力のみなざる岡谷の創生に向けて、全力を傾注して取り組んでまいりたいと決意をしております。

多くの市民の皆様からお寄せいただきました、期待と信頼に応えられよう、「市民主役の市政運営」を原点到、公約の実現に最善の努力を尽くし、さらに住みよいまちとして将来を担う子どもたちに引き継いでいけるよう、様々な行政課題に積極的に取り組んでまいりますので、市民の皆様におかれましては、一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今井 竜五